インハウスレポート

【当会会員】大森 健一郎（66期）
Omori Kenichiro

インハウスローヤー（組織内弁護士）とは、企業や団体に所属する弁護士、省庁や自治体に職員として勤務する弁護士の総称です。

本企画は、当会所属のインハウスローヤーに経験談を紹介していただく連載企画です。

1. はじめに

私は現在、半導体メーカーの法務総括部にインハウスローヤーとして勤めており、弁護士として登録して今年で10年目となります。

私の経験談がインハウスローヤーにご興味をお持ちの方に少しでもご参考になれば幸いです。

2. 経歴･経緯

私は、弁護士登録後の最初の約7年間を、東京にある外資系法律事務所と日系の大手法律事務所で勤務しました。仕事を始めてからは、目まぐるしいスピードで進む目の前の案件に日々必死に取り組む日々でしたが、次第に自分の仕事が実際のビジネスにどのように活きているのかを知りたいという思いが強くなっていき、インハウスローヤーという道にも興味を持つようになりました。

その後、コロナ禍となり予期せぬ形で生活環境等が一変し、色々と将来のことを考えることが多くなった頃、たまたま転職エージェント経由で当社がインハウスローヤーの募集をしていることを知りました。当時、積極的に転職を検討していた状況ではなかったのですが、私は大学時代に理系学部で半導体分野を専攻しており、昔からこの分野の事業に興味を持っていたこともあり、一度話を聞いてみたいと思い応募した結果、ご縁があり当社へ入社することになりました。

3. 当社の概要と法務部の業務

当社は、グループ全体で約2万人以上の従業員数を有し、グローバルに展開する日本の半導体メーカーです。

現在の当社の法務部門は、国内外合わせて約100人程度で構成されています。このうち、知財部門や輸出管理部門等を除いたいわゆる「法務」については、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、IP（戦略、ライセンス、訴訟対応）、M&A、契約・紛争、戦略法務等といった部門に分かれておりますが、それら全ての部門を総括するジェネラルカウンセルを始めとして、私を含めて国内外の多数の有資格者が在籍しています。また、それらの部門に加えて、国外の複数の地域に有資格者を中心とした現地の法務チームも存在します。

私は、入社後の約2年間を契約・紛争チームに在籍して主に契約審査や紛争案件を担当していましたが、今年からは戦略法務担当となり、株主総会対応やM&Aを含めた様々なプロジェクト案件を中心に担当しています。もっとも、人によりますが、厳格に担当範囲や役割が区切られているわけではなく、その時々の必要性や各メンバーの意向等に応じて柔軟に対応しているケースが多い印象です。

この規模の日本企業としては法務部門の規模が大きく、業務内容も専門化・グローバル化が進んでいる印象を持っていますが、その理由としては、

顧客・従業員を含めて海外の比重やプレゼンスが高く、様々な先端技術が含まれる製品等を日々国内外に多数販売するという事業の性質も影響しているように感じています。

小規模法務や一人法務等に特に興味を持たれている方にとっては少し物足りない部分もある環境かもしれませんが、私のように、インハウスローヤーとなった後も様々な専門的な知識・経験を持つ世界中の同僚等と一緒に働いて経験を積み続けたい、と考える人にとってはとても恵まれた環境ではないかと感じています。

4. 企業で働くメリット

実際にインハウスローヤーとして約3年間働いた経験としては、例えば以下のような利点が挙げられると思います。

1. 視野や経験の幅が広がる

法律業務をサービスとして提供する法律事務所とは異なり、法務部門は会社の事業をサポートする一部門であるため、必然的に、社内の様々な国・地域・部門の同僚達と一緒に仕事を進める機会が多くなります。お互いの前提知識や考え方が大きく異なるメンバー間での調整作業等も必要となるため、大変な部分もありますが、法律事務所に勤務していた頃には得ることが難しかったような学びも多く、貴重な経験であると日々実感しています。

2. ワークライフバランスが確保しやすい

あくまで一般論となりますが、法律事務所での勤務と比較すると全体的にワークライフバランスは確保しやすいと思います。実際に私の場合も、インハウスローヤーとなった後は、業務を離れて休める日が法律事務所時代よりも多く、家族と過ごせる時間が全体的に増えたと実感しています。

3. 働き方の自由度が高い

これも会社によって異なると思いますが、現在は、服装や勤務場所等について比較的自由な会社も多いと思いますし、いわゆる間接部門である法務部門は、テレワークとの相性も比較的よいように思います。

当社の場合、特に法務部門等の間接部門は原則としてテレワークでの勤務体制を継続しており、日々の勤務場所や服装等も原則自由です。私は昔からスーツが苦手なため、この点はとても助かっています。また、プライベートの面においても、現在2歳の娘がいますが、その成長を毎日近くで見守ることができることはとても有り難く感じています。

5. おわりに

法律事務所での勤務と異なり、インハウスローヤーは会社組織の一員としての役割を期待されるため、また違った大変さはあると思います。ただ一方で、自分の選択肢を色々と広げる機会でもあると思います。

実際に調べ始めてみると、本当に様々な会社や法務部門等があることに気付くと思いますし、私のケースのように、予期せぬタイミングでインハウスローヤーへの可能性が開く場合もあると思います。そのため、もしご興味がある方がいれば、事前に色々と情報を集めておくことも重要かと思います。